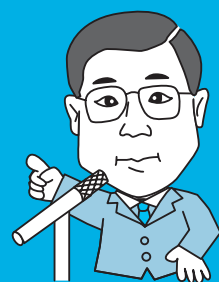


市長の まちづくりメッセージ



市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。

「平成20年度のスタートにあたって」

3月31日、32名の職員が退職され、4月1日に新たに13名の職員を迎え、平成20年度が新たな体制でスタートしました。多様化・高度化する住民ニーズに対応し、地域特性を活かしたまちづくりを進めるため、「共創と協働で育むまちづくり」を基本理念とした総合計画に基づき、組織体制のさらなる強化、人事管理の適正化、さらに公民館の自主運営への移行などを見据え、適材適所に人材を配置しました。また女性職員・技術職員の積極的な登用も行ないました。

また、先の3月議会において平成20年度予算が審議・議決されました。本年度は「改革を統行、生活をしっかりと応援」をテーマに、財政健全化を着実に進めつつ、少子化対策や教育環境の充実、地球温暖化対策や、もつたない文化の醸成、安心できる医療の確保、さらには地域の経済的活力の創出など、生活者重視の観点から総合計画に掲げる3つの「ひかり未来戦略」を

軸に、政策課題に積極的に取り組んでいきます。

各部署においては総合計画の着実な遂行と施政方針を十分認識し、常にあらゆる情報を収集するとともに、しっかりとした問題意識を持ちながら一人ひとりが組織人としての役割を踏まえ、さらなる資質向上と市民サービスの向上に努めてください。

「市民アンケートに思う」

昨年10月、市民の方々から無作為に抽出した1000人の方に、市民アンケートを実施しました。

市政への関心については約74%の方が関心を持たれていますが、市民意見のまちづくりへの反映については約24%の方が「反映されている」と回答されている反面、約26%の方が「反映されていない」と回答されています。また、市政に意見を言う機会や手段等については約11%の方が「満足」、約26%の方が「不満」と回答されています。住み良さについては、約8割の方が「住みよい」、あるいは「まあまあ住みよい」と回答され、約7割の方が光市に愛着を感じておられ

ます。また、市民からのニーズが高いと考えられるものとして、「企業誘致、雇用の確保」、「地域医療対策の充実」、「高齢者福祉対策の充実」などが挙げられています。

光市のまちづくりへの提言については、「福祉・保健・医療」や「交通・基盤整備」、「行政運営」などについて、延べ179件の意見・提言をいただきました。

今後のまちづくりの参考となるべき意見や、建設的な提言など多数ありましたが、三島温泉健康交流施設事業や財政運営に関しては、現状や計画をどのように把握され、判断されたのか、内容を正しく理解していただいていないの

ではと見受けられる意見や提言もあるように感じました。

私たちは常日頃から、市広報やホームページ、市民協議などあらゆる機会を通して市の施策や事業を、その趣旨や目的、さらには市民生活に与える効果などを分かりやすく説明することで、市政への理解が深まり、関心もより一層高くなるよう、努力しているところですが、市民の皆さんの正しい理解を得るためにはさらなる工夫や改善を続けていくことが必要です。

市民と行政の認識の「ずれ」は、少なからず生じるものかも知れませんが、それを最小限とするためには、あらゆる角度からさまざまな手段を用いて、市の考え方を市民に伝え、理解していただく努力と市民のご意見にしっかりと耳を傾ける努力が必要です。そのことが「共創と協働で育むまちづくり」の条件だと思えます。今回のアンケート結果をいろんな角度から分析・活用して現状や課題、市民ニーズをしっかりと認識し、より良いまちづくりに反映できるように、頑張っていきたいと思えます。

